

◆患者の運びかた

運ぶ前の準備 運びかたの実際

傷病者は、特に重症であればあるほど動かしたくないものです。しかし、逆にいえば重症の傷病者ほどすばやく移動させ、救急車や病院に搬入されるまでの時間を短縮する必要があります。

ここでは、傷病者への悪影響を極力少なくし、安全に移動させる搬送法について紹介します。

[▲ページのTOPへ](#)

運ぶ前の準備

搬送を始める前に、次のことを確認しましょう。

1. 傷病者に対する応急手当はすすんでいますか。たとえば、出血がある傷病者へは止血法をおこなっていないとなりません。
2. 傷病者の体位はどれが適切でしょうか。「体位の確保のしかた」を参考にしてください。
3. 傷病者の保温も大切です。「保温のしかた」を参考にしてください。
4. 人手は集まっていますか。また各人の役割分担は決めましたか。
5. たんかや代用たんか(戸板など)は準備されていますか。
6. 搬送先とその経路について確認してありますか。

→[体位の確保のしかた](#)

→[保温のしかた](#)

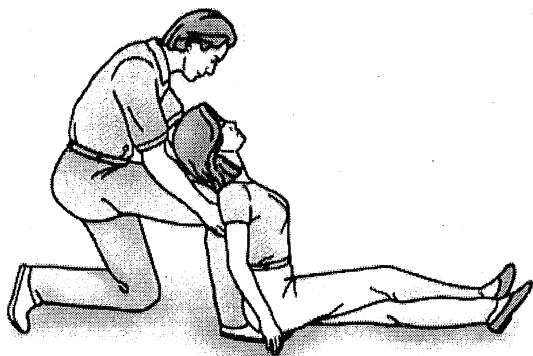
[▲ページのTOPへ](#)

運びかたの実際

▶引っぱりかた

1. 傷病者の両肩の下に手を入れ、肩をすこし持ち上げたところで右足先を入れながら傷病者を起こしていきます(図1)。
2. 両わきから手を入れ傷病者の両手くびをしっかりとぎってから、ゆっくりと立ち上がります。そして傷病者の腰がすこし持ち上がる程度に引っぱります。このまま移動したり、階段を下りたりすることができます(図2)。

●図①



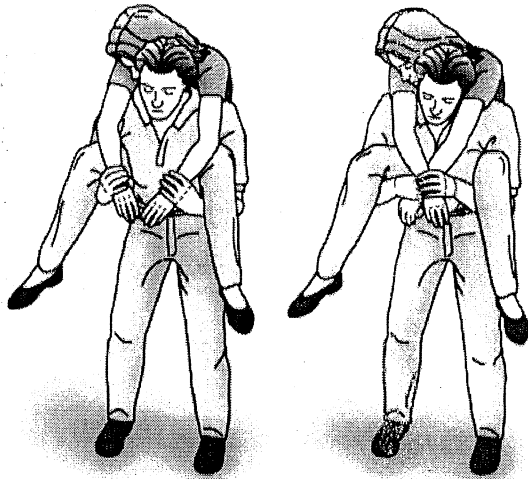
●図②



▶背負いかた

背負って運ぶ方法では、傷病者を観察できません。このため意識が低下しているときは、うしろにのけぞり、救助者もいっしょに倒れたりする危険があります。傷病者の手くびをしっかりとぎって固定することが大切です(図3)。

● 図③

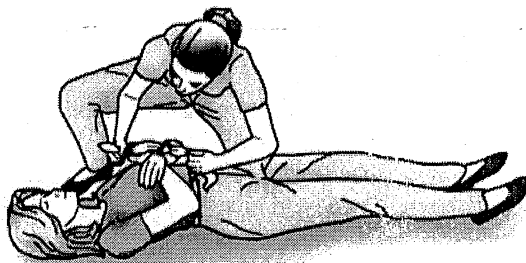


▶ はって救出する方法

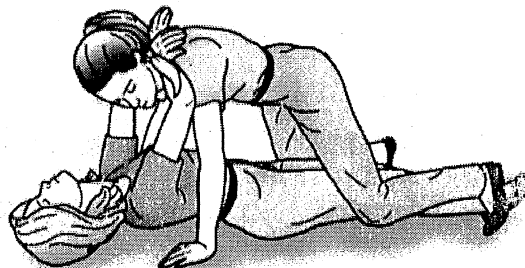
火災のときなど、煙に巻かれないように低い姿勢で傷病者を救出するときに用います。

タオル、ハンカチなどで傷病者の両手をしっかりと縛ります(図4)。救助者は傷病者の腕の中に頭を入れ、はいながら脱出します(図5)。

● 図④



● 図⑤



▶ 傷病者を担ぎ上げる方法

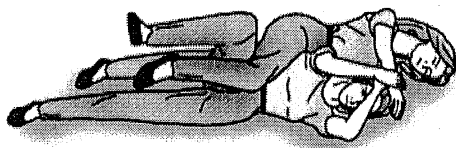
意識を失い倒れている傷病者の緊急搬送法として用いられます。

救助者は、傷病者の前にぴったり添うようにして寝ます。そして、傷病者の手くびをしっかりとにぎり、救助者の片足を傷病者の足の間に深く差し込み、救助者は差し込んだ足のひざを曲げます(図6)。

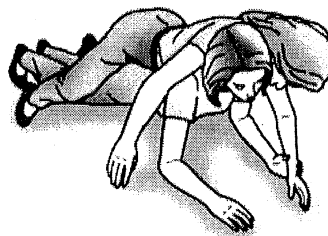
傷病者の手くびと足を固定したまま、救助者はくるりと回転し、うつ伏せの姿勢になると、傷病者は救助者の背中の上に乗ってきます。救助者は、傷病者が十分に自分の背中に乗っているかを確認めます(図7)。

傷病者が背中からずり落ちないように注意しながら、ゆっくりと立ち上がります(図8)。

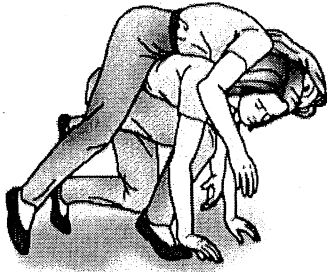
● 図⑥



● 図⑦



● 図⑧

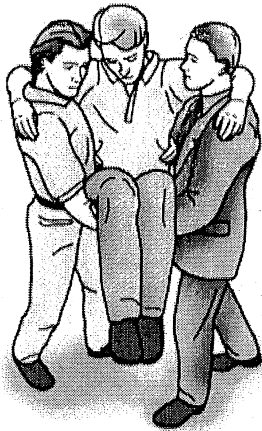


▶ 2人で抱えて運ぶ方法

2人で抱えて運ぶ方法には次の3通りがあります。

1. 傷病者の両横から抱えて運ぶ方法…傷病者の意識があり、救助者のくびにつかまることができる場合に用います(図9)。
2. 傷病者の前後から抱えて運ぶ方法…傷病者の意識がない場合に用います。そして傷病者の足のほうに進みます(図10)。
3. 傷病者の上体と足をそれぞれ抱えて運ぶ方法…傷病者の意識がない場合に用います。傷病者の足のほうに進みます(図11)。

● 図⑨



● 図⑩



● 図⑪



▶ 3人以上の人手がある場合の搬送法

3人以上の人手があると、傷病者を水平にして運ぶことができます。

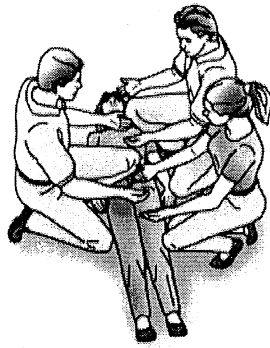
救助者は配置につきますが、傷病者の上体に2人、足に1人以上の配置とします(図12)。

傷病者の背面に救助者の手を差し入れます。このとき、傷病者の頭部も必ず支えるようにします(図13)。

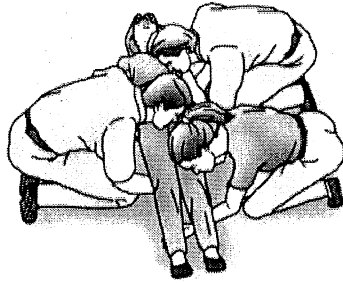
傷病者の頭に近い救助者の合図により、ゆっくりと立ち上がります(図14)。

傷病者のからだを水平にし、足のほうに進みます(図15)。

● 図12



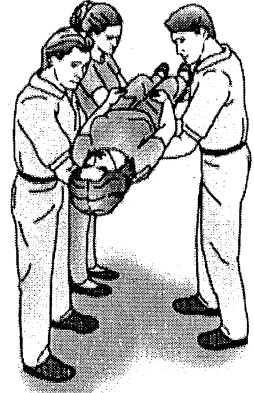
● 図13



● 図14



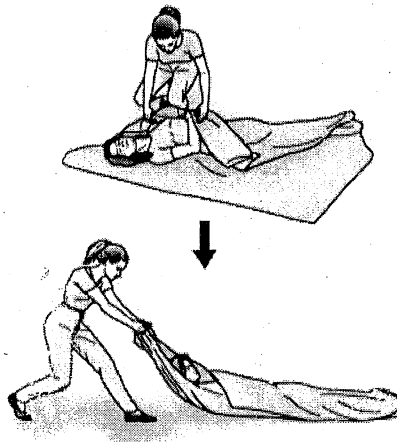
● 図15



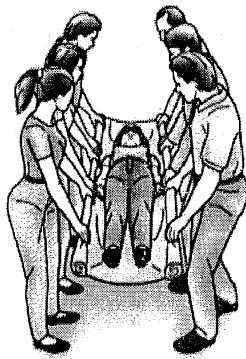
▶毛布を用いる方法

1. 救助者が1人の場合…毛布の対角線上に傷病者を乗せ、毛布をたたみ傷病者をくるみます。そして、傷病者の頭部の毛布を持って引っ張ります。(図16)
2. 救助者が4人以上いる場合…大勢の人手があると、毛布をたんかとして傷病者を運ぶことができます(図17)。

● 図16



● 図17



▲ページのTOPへ

心と身体の健康ガイド

漢方薬